

目 次

1	発刊にあたって	1
2	入賞者一覧	2
3	作文コンクール（要項・応募状況・審査内容）	3
4	受賞作文	4
	富山県知事賞 黒部市立高志野中学校	吉田 大成 … 4
	北方領土問題対策協会理事長賞 射水市立小杉中学校	川島 夕佳 … 5
	北方領土返還要求運動富山県民会議会長賞 黒部市立宇奈月中学校	三和 千夏 … 6
	富山県教育委員会教育長賞 富山市立西部中学校	前澤 駿介 … 7
	富山県市長会会長賞 黒部市立桜井中学校	小澤日向子 … 8
	富山県「北方領土問題」教育者会議会長賞 魚津市立西部中学校	塚本 久子 … 9
	入選 黒部市立宇奈月中学校	佐々木悠月 … 11
	入選 黒部市立宇奈月中学校	二口絵美菜 … 12
	入選 黒部市立鷹施中学校	草島 華穂 … 13
	入選 黒部市立鷹施中学校	三見満里奈 … 14
	入選 黒部市立高志野中学校	兼平 明樹 … 15
	入選 黒部市立高志野中学校	二法田瑞希 … 16
	入選 黒部市立桜井中学校	植田 千穂 … 18
	入選 黒部市立桜井中学校	田中 唯香 … 19
	入選 魚津市立西部中学校	大城 愛美 … 20
	入選 魚津市立東部中学校	澤崎 紗菜 … 21
	入選 富山市立西部中学校	飯田 千晴 … 22
	入選 射水市立新湊西部中学校	板谷 怜奈 … 23
	入選 射水市立新湊西部中学校	荻原 有彩 … 24
	入選 射水市立新湊西部中学校	中村 直人 … 25
	佳作 黒部市立宇奈月中学校	柴 玲生 … 27
	佳作 黒部市立宇奈月中学校	清水 大夢 … 28
	佳作 黒部市立桜井中学校	川上 遼 … 29
	佳作 黒部市立桜井中学校	水島はるか … 30
	佳作 入善町立入善西中学校	朴木 傑 … 31
	佳作 富山市立奥田中学校	大野奈々子 … 32
	佳作 射水市立大門中学校	金田 和磨 … 33
	佳作 氷見市立十三中学校	岡 あゆり … 35

(巻末) 参考資料

発刊にあたって

北方領土は、私たち富山県民にとって先人が開拓した大切な領土であり、本県に六百人以上おいでになる元島民の方々にとってはかけがえのない故郷です。しかし、戦後六十七年が経過した今日においても、依然としてロシアによる不法占拠が続けられています。

「私たちと北方領土」作文コンクールは、中学生を対象に、北方領土という日本の領土でありながら、日本人が自由に往来できない地域があるという現実を正しく理解し、関心と呼び起こすことを目的に実施したもので、今回で六回目となります。

県内全域の中学生から多数の応募をいただき、北方領土の歴史や富山県とのかかわり、国際情勢を分析しながら現在の交流の状況などを自分で調べ、興味と関心をもって学習している生徒が多いことに驚きました。この作文集は、そのうち二十八編の入賞作品を掲載しておりますが、いずれも大変すばらしい作品であり、北方領土問題に正面から向き合って考えたこと、問題の解決には国民の粘り強い取り組みが必要なこと、ロシア人との相互理解が必要であることなどが訴えられています。また、残念ながら、あと一歩で入選を逃された作品の中にも、きらりと光るすばらしい作品が数多くありました。

これらの多くの作品から、北方領土問題解決の希望を担う次世代の皆さんが育つことがうかがわれ、喜びにたえません。また、こうした学習を通し、生徒が国際的な場でも活躍できる力を身に付けてくれるものと期待しております。

この作文コンクールを通して、北方領土問題の正しい理解とその返還運動について、自らの考えをもち、文章に表現することは、それぞれの学校における北方領土についての授業のあり方とその内容が大きくかわってくるということを改めて実感しました。私も県民会議と教育者会議では、北方領土に関する教育用DVDとその活用の手引きを県内全ての中学校に配布し、授業を進める上で有用な教材として活用いただくよう取り組んでおり、引き続き、北方領土教育の一層の充実に努めていきたいと考えております。

おわりに、この作文コンクールにご協力いただきました多くの皆様方に改めて厚くお礼申し上げます、発刊の言葉といたします。

平成二十五年三月

北方領土返還要求運動富山県民会議

会長 山辺 美嗣

富山県「北方領土問題」教育者会議

会長 尾村 国昭

僕たちにできること

黒部市立高志野中学校 三年 吉田 大成

みなさんは北方領土を知っていますか。北方領土とは、日本がロシアに返還を求めている、歯舞群島・色丹島・国後島・択捉島の四つの島々のことです。現在はロシアに不法に占拠されていますが、北方領土はいまだかつて一度も外国の領土となったことのない日本固有の領土です。北方領土に人が住みだしたのは、各地の遺跡などからみて数千年前からと考えられています。北方領土に住んでいたアイヌの人々は、江戸時代の初め頃から松前藩との交流を始めました。その後、南下するロシア勢力の勢いが強くなつたため幕府は北方領土を直轄地にし、漁場や陸路、海路を開き、島々を開拓しました。南下を続けるロシアとは一八五五年に下田で「日露通好条約」を結び、その結果、択捉島から南の島々は日本の領土に、ウルップ島から北の島々はロシアの領土になりました。明治時代になり、北方領土の開拓がいつそう進むと人口も増え、大正時代の終わりには二万人近い日本人が暮らしていました。このように、北方領土が外国の領土であったことはなく、「日本固

有の領土」だと言われているのです。

先日、高志野中学校の三年生で北方領土講演会を開いて、元島民の方々や、根室の高校生に話を聞きました。そこで僕は、「北方領土には、元島民の方々が住んでいた住居は今も残っていますか。」と質問しました。「家は残っていません。今は開拓されて草原になっています。」と聞いた時はとてもショックでした。もしも、北方領土が返還されて自分の故郷に戻っても、住んでいた場所がなくなっていたらとても残念な気持ちになります。また、ロシアは、日本人が住んでいた家などをなくして、元々北方領土はロシアのものだったと言いたいのかもしれません。でも、日本に元島民の方々が一人もいなくなってしまうたら、誰が北方領土返還を訴えるのでしょうか。それは、次の世代の僕たちです。元島民の方々や高校生からの生の声を聴くことによって、今度は僕たちが次の世代に伝えることができます。このように語り継いでいくことで、北方領土返還運動はいつまでも続けられ、いつかは返還される日がくるかもしれません。

今回の北方領土講演会の時に、高校生のお話がありました。その中に、「領土問題は国と国との問題であって、人と人との問題ではない。」という言葉がありました。その

言葉にとても感動しました。北方領土問題は、解決するた
め国同士で話し合うことに意味があることだと思いまし
た。決してロシア人が悪いわけではありません。みなさん
ロシア人を嫌いにしないでください。これから僕たちが
していくことは、日本人全員が北方領土返還の声を大きく
していくことだと思いませんか。

私の北方領土返還要求運動

射水市立小杉中学校 三年 川島 夕佳

今年の夏は、竹島・尖閣諸島をめぐる日本と諸外国と
の間で平行している問題がメディア等で大きく取り上げら
れていました。その為、国民の中で、北方領土に対する意
識が少しでも変わった人はたくさんいると思います。私も
以前は、多くの国民と同じように、領土問題に強い興味・
関心がありませんでした。しかし、今年の夏に北方四島交
流事業に参加し、たくさんのことを経験したことで、私の
領土問題に対する意識が変わっていったのでした。

私の参加した事業は俗にビザなし交流と呼ばれていて、

一九九一年にソ連側から、日本国民と島に暮らすロシア人
との交流を図るために発案され、ビザなしで四島と往復で
きるようになったのです。

そして私は、四島の一つである国後島を訪問しました。
私には、国後島へ渡る前から大きな不安がありました。そ
れは、クリル開発計画によつて島の開発が着実に進んでい
き、この先、北方領土が返還されることがなくなるのでは
ないのか、ということでした。島では、たくさんの施設等を
視察し、島の現状を目で確かめました。すると、市街地で
も舗装されていない道路がかなりあること、多数の民家や
施設の老朽化が進んでいること等、開発がまだまだ進んで
いない点がたくさんあることを知りました。しかしその一
方で、南クリル消防署やメンテレエフ空港が改築されて、
新しく、近代的なものになっていたり、数年前まで設
備が今以上に不十分だったという港湾や道路、物資、イン
フラの設備が変わっていつているのも目の当たりにしまし
た。そして、急速ではないにしろ、開発が着実に進められ
ていつているのを感じ、島が返還されないのではないのか
と改めて不安に思いました。

私は、北方四島交流事業でたくさんの貴重な経験をする
ことができました。その中で、北方領土に対して抱いてい

た「距離は近いけれど、ロシアの支配下に置かれてる北方領土は自分の生活と関わりが無いから気持ち的にも遠い」という考えが変わり、北方領土を「近い」と感じる事が出来ました。私個人として、今回の交流事業を通して北方領土という島に近づけたのではないのか、とも思っています。

しかし、誰しものように実際に現地へ赴いて、見たり聞いたりすることは難しいです。ですから、自分の経験したことをできるだけたくさんの人に伝えて、理解してもらい、今の私のように、領土問題に対して強い興味関心を持ってもらえるよう、今の私に出来る最大の北方領土返還に向けての運動として頑張っていきたいです。

北方に浮かぶあの美しき島々が近い将来返還されることを願って。

北方領土返還のために

黒部市立宇奈月中学校 三年 三和 千夏

私は北方領土について学習するにあたり、全くといって

いいほど知識も関心もありませんでした。ですが今回授業で北方領土について学んだり、元島民の方々のお話を聞いたりしていくうちに私も人事だと考えてはいけなと思うようになりました。

こういった考えを持ったのは、私達の住んでいる富山が北方領土と深い関係があると知ったからです。

当時、北方領土には富山からたくさんの方が移住しており、また島からの引き上げ者の数が全国でも二位だそうです。また、富山で有名なこんぶの漁も盛んで漁が大変盛り上がり、また、富山と富山はたくさんの方々の接点があると知りました。また、移住しておられた富山の方々は「まじめでよく働く」と言われていたことを知り、なんだかうれしくなりました。そんな富山とのかかわりが深い北方領土問題について、とくに富山県民の私たちはもつと関心をもたないといけないと思いました。

そういった思いを抱きながら私は元島民の方々による出前講座に参加しました。お話では島での生活の話や今のロシアについてどう思っているかなども聞きました。貧しかったけど楽しかったということ、もし島が返ってきたらどうしたいかなどを話していた語り部さんには笑顔があふれていました。また、大変熱く、涙ぐむような様子で語ら

れており、それだけ北方領土に対する思いが強いんだなと
感じました。

私はお話の中で驚いた事がありました。それは語り部の
方々がロシア人に対しても尊重した意見をもっておられた
という事です。ただ返してほしいという思いだけでなく今
島に住んでいるロシアの方のことを考えておられて、私は
これからの返還運動にはこうした相手のこともしつかり考
える気持ちが大切だと思いました。一日も早い返還を待
ち、確実に話し合いを進めることがこれからの日本の課題
であり、元島民の方々の願いだと思います。

最後に北方領土の返還運動に対し、私達が協力するため
にはどんなことが大切になってくるのでしょうか。

一つは署名運動への参加です。いろんなところで活動は
行われているので、どんどん協力すれば良いと思います。
それが国民の声となり領土返還に一步近づくことができます。
もう一つは、北方領土問題に対して関心をもつこと
です。最近では十代、二十代がこの問題に対し関心がうす
らしく、知ってもらおうだけでもうれしいと言っておられま
した。このように私達にもできることはあります。私は自
分にもできる事は進んで取り組みたいと思います。いつか
島の方のふるさとが返ってくる日を信じて。

北方領土について

富山市立西部中学校 二年 前澤 駿介

僕は今回北方領土について学習し、北方領土の問題は日
本が一日も早く解決しなければならぬ問題だと思いまし
た。なぜなら、この北方領土は豊かな資源がある日本固有
の島だからです。それに北海道から最も近い歯舞群島まで
はわずか三・七キロメートルしか離れていません。最も遠
い択捉島でも百十キロメートルしか離れていません。こん
なにも近いのに日本の領土ではないということはありえま
せん。しかしロシアは未だに不法占拠をしています。

僕はこのような行動をするロシアは間違っていると思
います。このロシアと領土問題を解決するには絶対に行わ
なければいけないことがいくつかあると思います。

一つ目は北方領土に住んでいるロシア人への対応です。
実際に北方領土で暮らしているロシア人に「住んでいる島
を出ていけ。」と言っても僕だったら絶対動かないと思
うし、どこにどう住めばよいのか分からないと思います。逆
にロシアが日本に反発をして何も聞いてくれなくなるかも
しれません。だから北方領土に住んでいるロシア人の対応

として、ロシア人に別の住む場所を保証する必要性があると思います。このように、日本はロシアの立場になってロシアが何を求めているのか、どのような対応をすればいいのか考えることが大事だと思います。

二つ目は、国民の理解をもっと得ることです。以前の僕のように北方領土についてよく分かっている人が多くいると思います。一人一人が意識をしないとせっかく返還運動をしても全く意味がないからです。だから、ポスターやインターネット上のサイトの作成や署名運動の強化をして日本全体が北方領土問題を訴え、運動の輪を広げることが必要だと思います。

ほかにも領土問題を日本とロシアだけで解決しようとするには同盟国間で協力をしたり、歴史的正当性をもっと主張したりすればいいと思います。

僕が考えたことは、言うのは簡単ですが実行するのは困難だと思います。だけど、このような解決策を探していくことで一番の解決策を見つけることができると思います。その解決策がどれほど困難なものでも、日本が一つになれば、いつかは必ずよい結果がでると思います。

北方領土問題は日本にとってとても重要な問題です。僕たちが大人になる将来にすごく関係するかもしれない問題

だと思います。だからこそ、北方領土問題について国民一人一人が意識を強めて解決策を探して取り組むことが必要だと思います。北方領土問題を一日でも早く解決することを望むとともに、それに向けて自分のできることを一生懸命行いたいと思いました。

北方領土問題から感じたこと

黒部市立桜井中学校 三年 小澤日向子

私がこれまで北方領土のことを調べてきて感じたことは、日本は友好的だということ、日本は解決に前向きだということ、

日本が友好的だと感じたのは、両国が納得できる解決策を案として出している面からです。四島返還論、二島譲渡論、面積二等分論などのたくさん案を出し、両国が納得できる解決策を導きだそうとしています。私はこれをとても良いことだと思います。平和に解決をし、北方領土問題が解決したあともロシアと友好的な交流をしたいという、日本の心の表れだと思います。その反面、平和な解決を目

指すために、ロシア側に少しおされてきているのではない
かとも感じました。ロシア側のやり方はとても強硬的で
す。日本人の優しさが、逆にあだとなっているのかもしれ
ません。ですが私は、ロシア側に負けることなく、平和な
解決を目指し、一日でも早く解決できるような策を、日本
国民全員で考えていくべきだと思います。

解決に前向きだと感じたのは、国民全員が北方領土問題
はある、と捉えている面からです。私が調べたところ、ロ
シア国民はほとんどの人が北方領土問題を認識してい
ないそうです。それは、ロシア政府が「北方領土はロシア領
である。」と明言しているからだそうです。私はこれを「ロ
シア国民が北方領土問題を認識してしまうと、北方領土は
日本領になつてしまう。」とロシア政府の人が考えている、
と捉えることができると思います。ロシアは自信がないか
ら、強硬的な方法を行つてい、と考えることができま
す。これに対し日本は、国民全員が北方領土問題を認識し
ています。これは、国民も政府の人も解決に前向きである
ということを表していると思います。国が一体となつて解
決に向けて歩んでいるということだと感じました。これか
らこの姿勢を崩すことなく、私たちの次の世代へと伝え
ていって、何十年後も国が一体となつて解決に向けて歩ん

でいけるように、私たちが今できることを一つずつやっ
ていきたいと思っています。

北方領土問題の今の姿勢を他の領土問題に生かしたら良
いと思います。そのために、私たちができる「次世代に語
り継ぐ」ということをしっかりとやっていきたいです。そし
て、今ある領土問題が一刻でも早く解決できるように、私
たちにできることを考え続けていくべきだと思います。

北方領土と未来

魚津市立西部中学校 一年 塚本 久子

私は今まで、「北方領土」という言葉を聞いても、気に
とめなかつたり、関心を持つことができませんでした。私
にとつて、北方領土とは関係がなく、遠くかけ離れた存在
だと思っていました。しかし、この富山県と北方領土は昔
から深い関係があるということが分かりました。

北方領土とは、北海道の根室半島につらなる、歯舞群
島・色丹島・国後島・択捉島の四つの島のことです。森林
自然に恵まれ、漁業もさかんです。周辺の海は、暖流と寒

流が交わっていて、世界三大漁場の一つです。昔は、こんぶ漁などをしに、富山から多くの人が北方領土に渡っていました。

第二次世界大戦後、「サンフランシスコ平和条約」が結ばれ、歯舞群島・色丹島・国後島・択捉島の四島は日本の領土と決められました。なぜロシアの不法占拠が続いているのでしょうか。戦争で負けてしまったため、日本は何も言えなかったのでしょうか。

北方領土の返還を求め、民間団体や政府が、返還運動を行っています。日本の意見を貫き通すだけでなく、ロシアの意見を聞く交流の事業も、一九九二年から始まりました。日本国民と北方四島在住のロシア人がお互い行き来し、交流を深め、領土問題の解決に努める運動です。このように、北方領土の返還を求める声があるということをもっとたくさんの人に肌で感じてもらうのが大切だと思います。

現在、北方領土には、ロシアの人が住んでいます。日本が領土をとり戻してしまつたら、今住んでいる人々は追い出されてしまいます。それは、本当に領土問題が解決されたとはいえないと思います。日本人が戦争のときに追い出され、返還運動を続けるように、ロシアの人々も追い出さ

れることに対して反発し、日本のように返還を求めると思っています。互いの国が、自国の領土だと意地を張り、貫き通している、意見がすれ違えばかりです。日本の領土としてしまうのなら、今住んでいるロシア人を追い出すのではなく、生活する場を与え、一緒に協力して住んでいく配慮が大切だと思います。

領土の問題は、北方領土だけでなく日本にはたくさんあります。その一つ一つを解決していくためにもまず、双方の意見を取り入れることが大切だと思います。互いに現実的な和解提案を話し合い、日本とロシアの両国の北方領土にかかわる住民のよりよい生活を支える事業に取り組んではどうでしょうか。

未来を生きる私達にとって、国際社会との連携は不可欠です。地球上の全ての国々の人が友好を結び、幸せに生活を送ることが最も大切なことだと思います。

北方領土問題 日本とロシアの国の壁

黒部市立宇奈月中学校 三年 佐々木悠月

私は北方領土の学習をする前まで、まったくと言っていいほど北方領土問題に関心、興味がありませんでした。北方領土について知っていることといえば、択捉島、国後島、色丹島、歯舞群島の四島の名前。そしてロシア領とされているということぐらいでした。それに、北方領土問題についてはニュースなどで何となく耳にしたことがあったけれど私には関係ないと思っていました。しかし、社会科学の学習で北方領土について学習し、学習を進めていくにつれて自分の考えが大きく変わり、これから解決していかなくてはならない大切な問題だと思うようになりました。

そう思った理由は、北方領土が私の住む富山県に大きく関係していることを知ったからです。北方領土には、富山県から多くの人々が移住していて、ロシアの勝手な占拠により、北海道の次に北方領土から逃げてきた人が多いそうです。私はとても驚きました。それと同時に北方領土は日本固有の領土であり、富山県の人々が北方領土を開拓していったのに横取りをしたり、島から追い出したりするよう

なまねをするなんて、そんなひどいことがあっていいのだろうかと思いました。そして大切な故郷をうばったロシアの人達が憎らしく思えてきました。

しかし、現在、北方領土に住んでいるロシアの人にとっては北方領土が故郷なのです。ロシアが不法占拠して六十年以上、ロシアの若い人が北方領土が自分達の国だと言うのも仕方ないと思います。それに、もしも、北方領土が日本に返還されたとして、日本がロシア人に「島から出ていけ」と言ったら過去と同じことをくり返すだけになります。私はとても複雑な気持ちになりました。ただ、私は単純にロシア人と日本人が仲良く北方領土で暮らすことができたらいいなと思います。そんな簡単にはいかないと思うけれど、お互いの国の意見を聞き合い、お互いの関係が良くなれば理想的です。

私は、社会科学の学習で元島民の方のお話を聞く機会があり、そこで北方領土の関心が低いのは今の若い人達だと言われ心にさざりました。でもその通りだなと思います。まずは北方領土に関心をもち、よく知ること、またロシア人との交流を深めることが大切だと思います。「国の壁」というものがあると思うけれど、広い心をもって問題解決に力を入れていけばいいなと思います。

北方領土学習を通していろいろ知ることができ、様々な考えをもつことができました。これから課題解決のため、若い私達が努力するべきだと思います。

「ふるさと」の返還を願って

黒部市立宇奈月中学校 三年 二口絵美菜

今から六十七年前、択捉島、国後島、色丹島、歯舞群島に住んでいた日本人島民は、ソ連軍によって家族の憩いの場であった家、思い出、そして「ふるさと」をうばわれた。

私は、北方領土から引き揚げた島民が全国で二番目に多い、富山県に住んでいる。だからどうしても、北方領土を不法占拠しているロシアに腹が立つ。先日、社会科の時間に、元島民の方々と話を聴く機会があった。話を聴くかぎり、電気もなく、ラジオのような情報源もない、交通の便も悪い、北方領土は本州から孤立していた。そんな不便な場所だった島。しかし、元島民の方々は、

「返還されたらすぐに島に帰りたい。」

「島で仕事がしたい。」

と、口裏を合わせたように、口をそろえて言うのだ。ここで、私の中に疑問が一つ、生まれた。

「なぜ、こんなに不便な場所なのに、島に帰りたいと言うのか。」

その疑問は、元島民の方からの「ふるさと」の話で解決された。その方は、

「夜、眠る前に目を閉じると、島に住んでいたときの風景が浮かんでくるんです。島を訪問したときも、石ころや草花、一つ一つがなつかしいと身体が当時のことを鮮明に覚えているんです。」

と、言われた。私はハッとした。北方領土は元島民の方々のたった一つの「ふるさと」であり、島での思い出が元島民の方々を動かしていたのだと。そして、「ふるさと」があるということはどんなに幸せかということを知った。

昔も今もたくさんの人から愛されている北方領土。コンブ漁が盛んだったころに戻ることはできるのか。私たちに何ができるのか。それを考えたとき、私は自分の無力さに気付いた。私たちは小さなことしかできないのである。その小さなことで大事なものは、北方領土に関心を持ち、しっかりと知ることである。日本とロシアの領土問題を後世、そして未来へとつなげるには、私たちの胸に留めておかなければ

ればならない。

私は学習を通してこう考えた。北方領土はどちらか一方のモノではなく、両国が互いに共存していかなければいけない、と。二つの国の人が島を「ふるさと」と呼べる日が来たら、どんなに素晴らしいだろうか。元島民にとつての「ふるさと」が還ってくるまで、私は自分にできることをやっつけていこうと思う。

照らし合わせて

黒部市立鷹施中学校 三年 草島 華穂

「自分の故郷を他の人に奪われたら悲しいでしょ、つらいでしょ。」元島民の方が言っていました。私はどうしてもこの言葉が忘れられません。自分の故郷が奪われる、そんなことを考えたことはありません。だから私は少しでも理解しようと照らし合わせて考えてみました。

北方領土は自然が豊かでたくさん動物、めずらしい鳥がいます。しかし、今はゴミの放置、川に流れる油といった自然環境汚染が進んでいるのが現状です。また、世界三

大漁場に数えられています。島の人々は昆布業を主な仕事としていました。家族全員で汗水流し働いていました。それに比べれば私達の生活はどうでしょうか。恵まれた環境で甘えすぎだと思えます。自分がよければそれでいい、そんな生活だと思えます。お手伝いや友達への助言などを思っていることはたくさんあります。そこにはきつと漁業に取り組んでいた人々と同じ新鮮な気持ちになれると思います。そして、当時の北方領土は厳しい環境でした。子供は親と一緒に仕事をする毎日でした。だから、勉強はあまりできていませんでした。しかし、私達には勉強ができる環境があります。教えてくださる先生がいて、共に楽しく学ぶ友達がたくさんいます。大切な存在を忘れてはいませんか。

照らし合わせるとどれだけ私達が幸福な生活をしている、と、どれだけ北方領土問題を他人事しているのかよく分かりました。また、故郷というものが私達にとって大切な場所であることも強く感じました。元島民の方々は大切な故郷をロシアに占領されてしまいました。住んでいた家が跡形もないのを見て、

「胸にこみあげてくる。両親の苦勞が涙として出てくる。」と震える声で言っていました。この気持ちも今になれば

ちゃんと理解することができません。この苦しい思いがロシアには分かるでしょうか。きっとロシアも自分の故郷を失うとどれだけ悲しくて、つらいか照らし合わせれば理解できると思います。

あとは日本人の意識の問題です。最近の人達は返還運動に関心がなく、参加数も減少しているということ根室市の高校生の方々が資料をもとに明らかにしていました。これが日本人の意識の低さです。国のトップが訪問して強気な姿勢を見せるならば、私達は全国民の熱い思いで応援しましょう。そのために自らこの問題についてさらに興味をもち調べて、一人でも多くの人に伝えていきたいと思いません。

返還 北方領土

黒部市立鷹施中学校 三年 三見満里奈

北方領土。これは、日本の大切な宝です。現在ロシアに不法占領され、自由に立ち入ることができない状況におかれています。古来日本人が開拓し築きあげた、日本固有の

領土であることは間違いありません。なのになぜ未だ返還には至っていないのでしょうか。北方領土は、元島民の方にとつて故郷なのです。また、北方領土と私たちの住んでいる富山県は深い結びつきがあります。いったい、どのような結びつきがあったのでしょうか。

私は今年の夏、根室市へ行き、北方領土を視察してきました。さらに今回は出前講座が開かれ、元島民の方から詳しくお話を伺うことができました。

まず、第二次世界大戦以降の約七十年間未だ返還されていない理由として、日ロの間で感覚のズレが生じているところがあるからだと分かりました。日本にしてみれば終戦は八月十五日なのに、ロシアは九月二日が終戦だと訴えています。このことは、元島民の方にとっては、腹づもりがあつたに違いないとしか感じられないでしょう。

現在のロシア政府はというと、北方領土はロシアの領土で日本には絶対渡さないと断言しています。しかし、択捉島に住むロシア人は、全員が必ずしもそう思っている訳ではありません。日本に返すべきという人もいるのです。しかし、今ここで日本に返したとしても、北方領土で生まれたロシア人は、元島民の方々と同じような思いをすることになります。それでもやはり、日本国民として、元島民の

方の願いを放棄するわけには絶対いかないし、返還運動はこれからも続けていかななくてはなりません。

また、北方領土と富山県は昆布漁で主に深く関わっていたことが分かりました。越中衆が毎日のように汗を流し働いていました。厳しかった分、良い昆布もたくさん採れたそうです。そして元島民の方々は、島は良かったと言っておられました。私は富山県民として立派な先祖がいることを誇りに思います。

いずれにしても、これからは日口関係が大切になってくると私は思いました。この約七十年間何の変動もない北方領土について、首脳会談を根気強く行い、日口の交流も深めていくべきです。私たちに故郷があるように、元島民の方にも故郷があります。それが、北方領土なのです。故郷を奪われた元島民の方の思いを胸に返還を求めていくこと、それが私たちの役目なのです。

北方領土返還、実現への道

黒部市立高志野中学校 三年 兼平 明樹

北方領土返還。それは日本国民全員の願いです。最近では、竹島や尖閣諸島など北方領土を始めとする日本「固有の領土」が脅かされています。その中でも僕の故郷である富山県黒部市と関わりが深い北方領土。

先日、総合的な学習の時間に元島民の方々と北方領土研究会の高校生の方のお話を聞く機会がありました。元島民の方がお話す際、驚くことがありました。それは元島民の方が僕の住んでいる同じ町の方だったことです。事前学習で富山県に住む元島民の数が北海道に次いで多いということを知っていたものの、こんなにも身近に北方領土とつながりがある人の存在を知り、遠くに感じていた北方領土問題との距離が縮まったと思いました。ほかにも当時の漁業の様子や四季の変化、幼かった頃のお祭りの話を聞いて北方領土での生活がどれ程楽しかったことか身にしみて感じました。同時に北方領土への返還の思いが一層強くなりました。

また研究会の高校生の方の「国と国との問題であって、

人と人との問題ではない」という言葉がとても印象に残っています。高校生の方は北海道を代表して北方領土へ行き、そこでのロシアの人々との交流を通してそう感じたそうです。僕はこの言葉から自分自身の考え方を反省しました。領土問題になると何かと相手国の人々を批判していた自分。この言葉をきっかけに自分の未熟な考え方を気づかされました。しかし一方で元島民の方からは「露助」というロシア人を欺く言葉が発せられました。高校生の方の言葉、元島民の方から聞こえるロシア人への批判。「人と人との問題ではないのに……」と、とてももどかしい気持ちになりました。

意見交換も終盤、元島民の方が北方領土を訪れたとき、先祖の墓石が踏み台にされていたという話を聞いて怒りがこみ上げてきました。領土問題もロシアは解決したと言っていますが、実質的には解決していません。それにもかかわらず占領を理由に元島民の方々の気持ちを踏みにじる行為、これこそが「人と人との問題」を引き起こす原因だと僕は確信しました。今日も北方領土では、ロシアによる開発が進んでいます。豊かで美しかった自然も失われつつあります。では、人と人とのつながりも失われていくのでしょうか。領土問題によって互いを隔絶する。数年後、そ

んな日本の姿になっていくのは、僕は嫌です。だからこそこの北方領土問題は日本国民全員に課せられた大きな課題なのです。

北方領土返還。実現への道は険しく、簡単には乗り越えられない大きな壁です。両国がただただ自己主張をしていても事態は進展しません。政府間での協議や地域レベルでの交流活動が必要なのです。明けぬ夜は、ありません。人と人が手と手を取り合い、前に進めば、必ず実現への道は、開かれるのです。

北方領土について

黒部市立高志野中学校 一年 二法田瑞希

「北方四島は、これまで一度も外国の領土になったことのない、日本固有の領土です。」

私が住んでいる黒部市、特に生地地区には昔、北方領土から移り住んで来られた方々がたくさんいます。

毎年、お盆に私は家族みなでお墓参りに行きます。先祖を前にし、一年の報告をします。これは、先祖を大

切にする日本の文化ですし、日本人なら当然の行為です。日にちは違っても世界中で行われていることです。でも、その当たり前のことが出来ない方々がたくさんいます。悲しいことです。そしてそれが身近にいるのに、私は何もしてあげていない。私には本当に何も出来ないのだろうか、いいえ、きっと何か出来ることがあるはず、と思い、まずは北方領土について調べてみようと思いました。

北方四島は、齒舞群島・色丹島・国後島・択捉島からなります。終戦時には、たくさん日本人が住んでおり、漁業などが、盛んに行われていました。しかし第二次世界大戦末期の一九四五年ソ連は当時まだ有効であった日ソ中立条約を無視して対日参戦し、満州や樺太、千島列島へ攻め込みました。そして、日本が降伏した後も攻撃を続け、北方四島を占領しました。島民の約半数は自ら脱出しましたが、島に残った島民も劣悪な環境の樺太經由の引き上げを余儀なくされました。現在もお、ロシアによる不法占拠が続いており、北方四島は日本の領土でありながら、日本人が一人も住んでいません。北海道納沙布岬から一番近い齒舞群島の一つ貝殻島までの距離はわずか三・七キロメートルですが、一番近くで遠い国になりつつあります。

歴史から分かるようにこの北方領土は、日本の先人達が

開拓し、生活していったのです。武力によって住みよい土地を追われ、出て行かなければならなくなったのです。この悲しい歴史の事実に私は憤りを覚えます。先祖代々受け継がれた自分達の土地に、一日も早くお墓参りが出来るよう、願わずにはられません。

最近では、ロシアの首相が北方領土の一つである国後島を訪問しました。日本人の心を逆なでする行為に他なりません。

北方領土の返還には、国家間のかけひきが必要だと言われていますが、「北方領土は我が国固有の領土」だという、返還にむけた強い意志を世代や地域を超えて共有し、交渉の後押しとしなければなりません。

それには私達一人ひとりが、歴史を正しく認識する必要があります。そして私達若い世代が関心を持ち発信していかなければなりません。心をひとつに、

「北方領土は我が国固有の領土です。」

北方領土について学習して

黒部市立桜井中学校 三年 植田 千穂

私はこの学習で、北方領土問題が解決するとしたら、どんな解決策があるのだろうか、ということ調べてきました。戦後七十年近くなるのに、未だこの問題が解決されておらず、どうしたら解決するのか気になったからです。

日本政府のこの問題に対する方針は、四島すべてを返還させることを目標とし、返還なされることが確定すれば時期等には柔軟に対応し、ロシア人の人権にも配慮する、というものでした。対してロシア側が認める唯一の解決策は、四島の領土権は既にロシアのものになったという上で、二島だけを返還ではなく譲渡して領土問題を終結する、というものです。

私は、日本政府の主張する解決策において、柔軟な対応をすることやロシア人への配慮というところがいいと思いました。しかし、ロシア側の主張と照らし合わせると、どちらも自国に領土権がある前提で提示されていて、根本の考え方がまず違うので、このままではあまり返還運動は進まないのではないかと私は感じました。

それならばどうすればいいか、というのは私にとってはとても難しい問題です。当然、お互い相手に領土権があることは認められない。第三者の他国に仲介に入ってもらいか、あるいは広く日本やロシアの人たちに呼びかけて、この問題に関心を持ってもらう、この二つが、私に考えられたことでした。

そもそも、何故返還を求めるのか。もちろん、領土を取られてそのまま支配されるのは私たち日本国民の誇りに関わりませんし、また経済的に有益、という面もあるかもしれませんが。けれど私には、もう一つ理由があると思います。私は先日、『風と共に去りぬ』という本を読みました。その本には、主人公の土地に対する愛がすごく強く描かれていて、私はそれにとっても感動しました。土地は、そこに住む人の日々、記憶、思いなど、その人の人生というか生活を背負っているのだと思います。共に過ごし自分の一部に近いものになった故郷だからこそ、元島民の方たちは返還を強く願っておられるのではないかと私は考えました。私は北方四島に行ったことはないですが、もしこの先都会に出ることがあれば、故郷が恋しくなることもあるかもしれません。私たちが今ここでのんびりと暮らしていけるのは、とても恵まれたことなのだ、と改めて感じました。だ

から、北方領土の元島民の方たちももう一度故郷を訪れることができるように自分にできることがあるならばやっていきたいと思えます。そして、今ある、自分たちの故郷である富山をよりよくしていきたいです。

北方領土問題について

黒部市立桜井中学校 三年 田中 唯香

私は、最初は北方領土について何も知りませんでした。戦争していたころの話なんて自分には関係ないと思っていました。でも、資料を読んだり元島民の方のお話を聞いたりしているうちに、それは間違いだったのだと気づきました。いまだに故郷に帰ることができずに返還運動を続けている方もいるのだから、人として放っておいてはいけないと思えます。また、富山県は北海道の次に島民だった人が多いので、なおさら他人事ではないと思えました。

私が元島民の方のお話で一番印象的だったのは、もし北方領土が返ってきてても絶対にロシアに仕返しをしてはいけないと言っていたことです。自分達をつらい目にあわせた

相手にいやな思いはさせたくないなんて、心の底からはなかなか思えないと思えます。そんなところからも、元島民の方の真剣さが伝わってきました。本当に故郷を返してほしいという気持ちだけなのだと思います。

いろいろな話を聞いて私が調べようと思ったことは「北方領土に対するロシアの主張」です。元島民の方のあれだけ強い気持ちを無にするような現状で、ロシアはどう思っているのかとても気になりました。調べた結果、ロシアの主張にもたくさん種類があることがわかりました。中には、早く日本に全島を返還しようという意見も見られたので驚きました。やっぱり、多勢の人がいるのにそれをロシアとひとくくりにするのは間違っていたと反省しました。しかし、ロシアで最も多い主張は返還不要論でした。それは、日本はサンフランシスコ条約で千島列島の領有権を放棄した、北方四島は第二次世界大戦の結果戦勝国であるソ連が獲得した正当な領土であるというものです。日本の主張とは全く違いました。私は、調べる前は悪いのはロシアだと決めつけていたけれど、調べてからは日本が絶対正しいとは思えなくなりました。ロシアの主張も間違っているわけではないと思えます。どちらも、過去の条約を自分の都合のいいようにとらえているだけののような印象をうけま

した。しかし、だからといってロシアが北方領土に住んでいた日本の人の故郷を奪ったという事実は変わりません。ロシアの人にはそのことを理解して欲しいです。

私は北方領土問題を解決するには、多くの人の意見に耳を傾ける必要があると思います。自分の考えを正しいと決めるのではなく、相手の言うことを理解しようと努力するべきだと思います。そして、一刻も早く誰もが納得のいく終わらせ方が出来る日が来るといいです。

北方領土について考えたこと

魚津市立西部中学校 一年 大城 愛美

私が初めて北方領土について知ったのは小学校六年生の時でした。何となくテレビを見ていた時に、この言葉が耳に入ってきました。

もちろんその時は、深く考えていませんでした。中学生になって、社会科の授業で北方領土問題のことが取り上げられ、どんなことがあるのかと思ひ、調べてみることにしました。すると、特に二つのことが気になりました。

一つは、北方領土の島々に渡り、生活をしてきた人が北海道に次いで、富山県民が多いということです。このことで、本当に北方領土を身近に感じてきました。そして、これらの島々に住んでいた人の多くの方々が故郷へ帰ることができなかつたと思うと、残念でしかたありません。戦後の混乱の中で、北方領土はソ連（今のロシア）に不法占拠されてからでした。日ソ中立条約を結んでいたにもかかわらず、島民の人々が追い出されるのは納得いかないと思いました。

もう一つは、これらの島々を日本に返してもらうために、元島民の方々から民間の方々へ広がっていった返還運動です。最初は元島民だけだったのが、次第に広がり、今では都道府県単位の組織になっていることにびっくりしました。今、返還運動は、高まっていくと感じています。

そんな中、今年の七月、ロシアの首相が国後島を訪れて、北方領土はロシアの領土だと主張しました。

私は、このままでは、北方領土問題は解決するはずがないと思ひました。今までのように、日本もロシアも、「島を返してほしい。」

「この島は、ロシアの領土だ。」

と、お互いに主張し続けても解決はできないと思ひます。

このまま、北方領土をめぐって言い合うと、帰りたくても帰れない日本人と今、現地に住んでいるロシア人を混乱させ、深い対立になり、互いに排除する行動や、戦争のようにならないか心配しています。今のままではいけないと思います。

元島民の皆さんは、高齢の方が多く、また、島に帰りたいたいと思いがら亡くなった方が少なくないと思います。元島民の方々が一日でも早く島に帰ることを実現するには、日本とロシアが友好を深め、この島が発達することを目標に立てて、もつと両国が対等の考え方で解決していくべきだと思います。

北方領土「共生」を考える

魚津市立東部中学校 三年 澤崎 紗菜

私は、社会の授業で北方領土についてのビデオを見たことがきっかけで、北方領土問題に興味をもつようになりました。そのビデオの内容で、特に興味をひかれたのが、北方領土と富山県のつながりです。

私は、それまで北方領土について深く考えたことがありませんでした。遠く離れたところの話だと、他人事のように思っていました。しかし、多くの県民が北方領土へ出かけに行っていたこと、北方領土から富山県への引き揚げ者が北海道に次いで二番目に多いということなどを知り、北方領土問題が急に身近に感じられました。突然、住む場所や仕事をうばわれた苦しみは私には想像できません。でも、とてもつらいことなのだと思います。そんな思いをした人が、富山県にもたくさんいると知り、北方領土問題について真剣に考えてみようと思いました。

私は、日本とロシア、どちらが北方領土を統治するかということよりも、日本人とロシア人が共生することができる環境を整えることのほうが大切だと思います。二〇〇五年に行われた北方領土に住むロシア人三百人を対象とした世論調査では、もし日本に返還された場合、返還後の対応として島に残りたいと答えた人が全体の二十三・三パーセントでした。また、日本人との共生は可能か、という問いに対して、条件つきで可能と答えた人も含め、可能だという人が全体の四十四パーセントもいたのです。

北方領土は、過去にそこで暮らしていた日本人にとっても、現在そこで暮らしているロシア人にとっても、とても

大切な土地だと思えます。だからこそ、どちらも自由に、お互いを尊重して生活することができるといのが理想的なのではないかと思えます。もちろん、それを実現させることはとても難しいことだと思われ、損をすることもあります。しかし、互いの国の製品、技術などを売買したり、取り入れたりすることなどでうまれる利益も大きいと思えます。

私は、北方領土問題を他人事のように思っていた以前の自分を恥ずかしく思えます。また、ビデオをきっかけに北方領土について関心を持ち、自分の考えをもつことができてよかったと思えます。この作文も、誰かのきっかけになれば嬉しいです。

考えの違う人たちが和解し、お互いを尊重しながら共生していくというのは、とても大変なことだと思います。しかし、努力すれば必ず実現させられることだとも思えます。問題が早く解決し、日本とロシアの関係が良好になることを願います。

北方領土について

富山市立西部中学校 二年 飯田 千晴

私は以前からテレビのニュースや新聞などでも取り上げられている「北方領土」の問題に少し関心を寄せていました。けれど、知らないことの方が多く、国と国との問題への知識が欠如していたことがわかりました。

まず「北方領土」とは、歯舞群島、色丹島、国後島、択捉島の四つの島々のことであり、日露間の国交での大きな問題となっています。歴史を遡れば、様々な資料から日本の領土であることが証明されますが、未だ解決されず深刻な問題として日本の進歩を妨げているということが事実だと思えます。

私は、この問題は日本とロシアの双方の意見の食い違いによるものがこじれた結果だと考えています。正しい理解へ導くためには、国民全体での理解が必要だと思えます。私のように、関心を抱いていても問題への知識がない人や、全く以って無関心であるという人もいます。関心のある人が知識を身につけられるように、また全ての人に関心をもってもらうためにも、問題を身近に感じさせること

が重要だと思えます。私は今回DVDを見て、「北方領土」をとっても身近なものに感じました。ソ連軍の占領により島から移動せざるをえなかった人々もいるという事実を知ったからです。私はそれまで、「国」という大きなものを対象とした問題だという認識をしていました。しかし「人」が深く関わっているということを感じ、考えが大きく変わりました。ここまで問題が大きなものになってしまったのは「人」の影響なのだと思います。

「国」とは「人」の集団が暮らす大きなくくりだと私は考えます。「人」には意志があり、感情があります。もしも「国」が感情も意志も反映されない無機質なものであったならば、事実のみで即座に解決されていたでしょう。けれど「人」と「人」との問題であるからこそ一筋縄ではないかないところがあるのだと思います。だからこそ、国民一人一人が正しい知識を身につけ、自身での考えを深めることが重要なのであり、それこそが解決につながる大切な一歩です。

現在、「北方領土」について前向きな活動に取り組んでおられる方や、自身の体験を多くの人に伝えようと取り組んでおられる方がいます。日露間での交渉も少しずつ良い方向に向かっていてのではないかと思います。希望を捨て

ず、願いをもちつつづけることを忘れず問題の解決に向けて努力をつづけることが必要なのではないでしょうか。

一番目の国際国。北方領土

射水市立新湊西部中学校 二年 板谷 怜奈

私は、北方領土は中一の時、授業で少し話を聞いたくらいで、ほとんど何も分からなかった。しかし、北方領土についてのDVDを授業で見ると、北方領土をどちらかの国のものにしたなら、どちらかが不満をもつ、そして、戦いや問題をおこさないように解決しなければならないと分かり、この領土問題は本当に難しい問題だな、と実感した。

もう、北方領土にロシア人が住んで、約六十五年もの時間がたった。北方領土は、もちろん、引揚げて来た方の「故郷」である。しかし、今、北方領土に住んでいるロシア人にも、北方領土は「故郷」になってしまったのだ。違う県に引揚げた元島民の気持ちになると、自分の島を違う国の人に取られ、しかも、自分も島から追い出されたから、これに不満をもたない人はいない。でも、北方領土に

住んでいるロシア人は、当時はまだ子供で、親につれられて何も考えずに北方領土に来て、北方領土で育ち、いきなり故郷を出ていけと言われても、やっぱり不満を持たない人はいない。北方領土がどちらかの領土になって、どんな案を出しても、不満を誰も持たないことは、なかなか出来ない。

北方領土をどちらかの国にしよう、戦いや問題がおこってしまう。だから私は、北方領土は、日本でも、ロシアでもなくせば良いと考えた。そしたら、どうするのかと言うと、日本人とロシア人が共有して使えるという、新しい形の国を作れば良いと思った。新しい物やことが増えてきて、それが受け入れられている今の時代だからこそ、この新しい形の国を作れるのだと思う。沖縄にある普天間基地のようにならないよう、両国が決まりを作っていけば良いと思う。失敗は成功のもと、といわれている。だから今、普天間基地で失敗したことを生かし、成功させる時ではないのか。

富山県は、北海道の次に北方領土の元島民数が多い。しかし、遠いから無関心な方が多い。北海道の次に元島民数が多いことをたくさんの方に知ってもらい、もっと関心をもってもらいたい。DVDを見るまで、ほとんど北方領土

について知らなかった私が言うと、いろんなことを知っている人は怒るかもしれないが、北方領土の元島民も今住んでいるロシア人も北方領土が「故郷」である。そして、どちらも思いは同じである。だから、北方領土をどちらかの領土にせず、どちらも共有して使える領土にすれば良いと思う。これが、何も知らなかった私が少しだけ北方領土について分かった時に純粹に思ったことだ。「国際国」。新しい形の国だ。北方領土が一番目の国際国になることを願っている。

北方領土問題

射水市立新湊西部中学校 二年 荻原 有彩

最近、尖閣諸島や北方領土などの領土をめぐるニュースをよく見かけるようになりました。それは現代の日本が抱える深刻な問題となっています。しかし、この前までの私はこの領土問題にあまり関心がなく、どちらの国の領土でもよいのではないかと考えていました。

ある日私は、北方領土についてのDVDを見ました。北

方領土は初め、日本人によって開拓し、ゆたかな自然を生かした漁業、昆布漁を盛んに行っていました。第二次世界大戦が始まると、北方領土を次々とロシア人が占拠し、島の住民は島を出さずにはいられない状態になりました。そのときに島を出た島民は今も故郷に帰っていないというのです。故郷に帰れないとはどんな思いなのでしょう。「故郷」とは自分が生まれ育った場所のことだと私は思っています。私の故郷の小学校は在学中に統合し、現在通っている中学校も今年度で統合します。二回も自分の故郷の学校を失くすことはつらく、さみしく、悲しいです。北方領土の元島民の人は、故郷へ行くこともできず、ある日突然帰れなくなったのだから、つらい、悲しいはもちろん、ロシア人に対する怒りもあつたと思います。

DVDの中に、元島民の人のお話がありました。

「またすぐにもどつてこられるだろう、と思っていました。島から離れてくらししていくうちに、生活は苦しかったが島はよかった、前に住んでいたようにもどりたいと思うようになりました。」

なつかしそうで遠くを見て話されました。この話を聞き、元島民を早く故郷へ返してあげる使命のようなものを感じました。ただ「北方領土は日本のものだ」北方領土を返

せ！」と言っているはなにも起こりません。誰かが行動に移すことで初めて問題解決へ動き出すのです。「誰か」とは誰か。日本の未来を支える私たちなのではないでしょうか。私たちが北方領土のことを考え、行動し、解決へ導かなければいけないのではないのでしょうか。確かに北方領土にはたくさん問題点があります。だからといって、問題を放っておいてはいけません。まずは日本とロシアとがしっかりと話し合い、お互いを理解し尊敬し合うことが大切だと思います。すると、北方領土での共同生活、そして北方領土返還へ動き出すはずです。

私はこの北方領土問題を解決させる努力をするために、たくさんの方にこの問題を伝えていきます。日本全体が北方領土問題解決へ動き出す日まで。

北方領土問題から考えたこと

射水市立新湊西部中学校 二年 中村 直人

日本の地図を見ると、北方領土といわれる島々の中の択捉島は日本の北端であり、日本の国境を見ても北方領

上を含んでいることが示されています。しかし、海外の世界地図を調べてみると、ほとんどがロシアの領土と記されていました。ただし、国境線は未確定になっています。これは、日本ばかりが「北方領土」は、日本の領土であると主張していて、世界はそれを認めていないか、知らないのではないかと感じました。

北方領土についてのDVDを学校で見て、間違いなく日本固有の領土であることがわかりました。また、かつて住んでいた日本人たちは、戦争に負けた時、それまで苦労して築き上げたものをすべて失い、ロシア（ソ連）の軍隊に追い出されてしまいました。そして、今そこには多くのロシア人が住んでおり、軍隊が配備されています。日本の漁船が北方四島の領域に入った場合、捕まえられたり、銃撃されることさえあります。

許可なくこえた場合、命さえも脅かされる、国境とは何なのか。それは力づくで決めるものなのか。社会科学の地理で学んだ中では、自然地形に基づく方法と緯線・経線で決める方法がありました。歴史の中では戦争などを経て、国が分裂したり征服されたりして国境は変化することを学びました。

「実効支配」という言葉があります。意味は、「ある国や

勢力が、対立する国や勢力もしくは第三国の承認を得ないまま、軍隊を駐留させるなどして、一定の領域を実質的に支配していること」です。武力を使い、人を住まわせて自国のものだと主張する。正当とは決して言えません。力づくで支配し、それが長時間続ければ国際的に認められるのであるならば、戦争が起こってしまうのではないのでしょうか。

最近よく報道されている尖閣諸島と竹島の問題も、自分の国の正当性ばかりを主張し、相手国の言い分や歴史を理解しようとしていないように感じます。個人のつきあいで、お互いの話を聞き、理解しようとしています。そうでなければいい関係はつくれません。

確かに、自分の国にとって得があるほうがいいに決まっています。しかし、お互いのことをよく理解し、譲り合うことがなければ、領土と国境の問題は、解決しないのではないのでしょうか。北方領土の問題だけでなく、世界の国々がお互いを思いあう世界になってほしいと思います。

黒部市立宇奈月中学校 三年 柴 玲生

僕は元島民の方々による北方領土出前講座を受けて、北方領土について考えさせられることが沢山ありました。また、北方領土への元島民の方々もつ思いを知ることができたり今の日本がかかえている領土問題についての考えを深めたりすることができました。

僕は今回の講話で元島民の方が言っておられた「ふるさと」という言葉がとても印象に残っています。なぜなら、今はロシアが支配している北方領土を、元島民の方々はその底から大切にしていると、最も強く感じる事ができた一言だったからです。講話では、北方領土を幼い頃に引き揚げて来られて、もう数十年という長い年月が経っているにもかかわらず、当時の事を鮮明に覚えておられ、今の北方領土に対する思いがとても伝わってきて、心に響きました。講話の中で元島民の方が「当時の草や石ころ、空気を今でも一つ一つ覚えていて。そして当時のことを毎日思い出す。」と言っておられました。元島民の方がいかに北方領土を大切にしておられるかをとても感じる一言でした。

元島民の方は、この言葉に続けて「このような、なつかしさを感じられるのが本当のふるさと」と言われました。この一言が心にとっても響いてきました。

元島民の方々にはこのような「ふるさと」を大切にしたいがあるから、今の北方領土返還運動があるのだと思います。僕はこの返還運動をこれからも粘り強く進めていくことが大切になってくると思います。そのために今後、必要になってくるのは今の僕達のような若い世代の領土問題への関心を高めることだと思います。そしてそれを後世へと受け継いでいくことが大切だと思います。年々この領土問題についての語り部の方などが少なくなってきて、元島民の思いを聞くことができる機会も減ってきています。だから今回の講話で貴重なお話を聞くことができた僕達が、しっかりと北方領土問題について考えを深めて目を向けていくべきだと思います。僕達ができる事の一つとして署名運動があると元島民の方が言っておられました。僕達でもできる事があると知りました。今回の講話を聴くことができたい一人として自分ができる事には積極的に取り組んでいきたいと思っています。そして元島民の方々の心からの願いである北方領土返還に向けての第一歩を一人一人ふみ出していきたい、国の大きな第一歩としていきたいです。

かけがえのない故郷

黒部市立宇奈月中学校 三年 清水 大夢

連日のようにニュースでは、尖閣諸島、竹島の領土問題が報道されていますが、もう一つ決して忘れてはいけない「北方領土問題」があります。なぜなら、北方領土とは富山県民との深いつながりがあるからです。

先日、私の中学校へ元島民の方々をお迎えして「北方領土出前講座」がありました。事前に社会科の授業で北方領土の歴史などは勉強はしていたものの、実際に元島民の方々から北方領土に関して、いろいろ貴重なお話を聴き、北方領土は富山県民にとって先人が苦勞をして切り開いた大切な領土であり、富山県でも特に地元黒部の方が多くおられることがよく分かりました。この方々にとっては、まさしく「かけがえのない故郷」が北方領土なのです。戦後六十五年以上が経過した今でも、自分の「かけがえのない故郷」を自由に行き来することもままならず、高齢になられた元島民のみなさんの心痛を察すると、同じ富山県民同じ黒部市民として、早期返還の思いがますます強くなりました。

それともう一つ私は、元島民のみなさんのお話を聴きながら、ふと修学旅行で沖繩のひめゆり学徒隊のお話を思い出し、戦争という悲しい出来事から故郷を占領されたみなさんの辛い苦しい経験とを重ねてしまいました。戦争のせいで、死との恐怖におののきながら自分の故郷なのに逃げ隠れしないといけない生活、なんとも屈辱的です。そんな歴史的背景からも北方領土問題は、二度と戦争をしてはならないという象徴として、真剣に考え四島の返還の重要性もすっかり受け止める必要があると再確認しました。

そのために私たちができることは、元島民のみなさんが熱く語られた「故郷を捨てる者はいない」の言葉にこめられていたように、日本の国民一人一人が領土問題にきちんと意識と関心を持ち、助け合って取り組む姿勢を忘れないことだと思っています。そして、しっかりと話し合い、平和的な解決策を探していくことも大切であると思います。私たち中学生でもポスターや標語などの呼び掛け、署名活動への参加など一つ一つ小さな事でも、みんなで協力すれば大きな輪につながり、意識も高まると思います。これは他人事ではなく自分事なのです。なぜなら、北方領土四島は日本のもの私たち日本人の「かけがえのない故郷」の一部だからです。

元島民のみなさんの悲願の北方領土返還は絶対に風化させてはいけません。日本の未来へつなぐ大切な取り組みとして、しっかりと心に受け止めて解決させたいです。「かけがえない故郷」へ笑顔で帰省される日を一日も早く実現させてあげたいです。若い私たちも自分の故郷日本のために、自分にできることを考えて力を尽くしていきたいと思えます。

北方領土と富山県

黒部市立桜井中学校 三年 川上 遼

ロシア化が進んでいる北方領土。最近、中国との尖閣諸島や韓国との竹島が問題となっている。僕は、その話をニュースなどで見たとき領土問題に興味をもった。そんな中、北方領土問題は話題にならない。どうしてだろう、と学校で北方領土についての学習が始まってから思いはじめた。だからもっと深く北方領土のことを知りたいと思った。

まずは、北方領土の歴史を知りたいと思った。学校でも

らった「知っていますか？北方領土」をよく読むと、古来から日本の領土であるということが分かった。しかし、一九四五年の八月十八日にソ連の攻撃が始まり四島が占拠されてしまった。それから今日に至るまで不法占拠されている。どうして日本の領土を占拠されないといけないのか不思議でたまらない。

また、自分が住んでいる富山県と北方領土が、歴史上深い関わりがあることも知った。さまざまな資料から、四島からの引揚者数が北海道に次いで多いことが分かった。これを知ったときおどろいたけど富山との関わりはすごく深いんだと思った。それから更に富山と北方領土についてすごく興味をもった。調べた結果、漁業不振だった富山県の人々が新たな漁場を求め進出したことから始まったことが分かった。厳しい環境の中、真面目に働く富山の人々は昆布の漁場を開拓していったそうだ。富山県民の中で黒部市生地の人が一番多かったそうだ。このことから富山（特に黒部）と北方領土はすごく身近なものであり、第二の故郷のような存在だ。こんな大事な四島をロシア化されると思うと、怒りがわいてくる。一日も早く返還をしないとけない、と思っている人は少なくないと思う。

しかし、先日あった「北方領土出前講座」で元島民の

方々の話を聞いてびっくりした。元島民の方々は四島で暮らしているロシア人に「帰れ」とは言えないと言ったのだ。正直意味が分からなかった。でもその続きを聞くと理解できた。もし日本人が四島に行つて帰れと言つたと、そこに住んでいた人は元島民の方と同様に故郷をうばわれてしまふ。ロシアの人たちには同じ思いをしてほしくない、とおっしゃっていた。元島民のみなさんはすごく心のやさしい人たちなんだなと思つた。また、ロシア人と日本人が共同で暮らすことはできないのか、ともおっしゃっていた。その意見が一番いい解決方法なのではないのかと思つた。

これまで調べてきた情報や聞いたお話は、これから領土問題を考える上でとてもためになった。やはり「知る」ということが何よりも大切だ。たくさんのことを知つて、自分の意見をもつことができた。これからは四島との関わりが深い富山県民、黒部市民として、北方領土問題解決に貢献できるように自分のできることを精一杯取り組んでいきたい。

北方領土について

黒部市立桜井中学校 三年 水島はるか

私はテレビや社会の授業などで北方領土のことを少し知っていたけれどくわしいことはよく分かりませんでした。しかしこの学習を通して領土問題について深く考えることができてよかったです。その中でも印象に残っていることが三つあります。

一つ目は富山県と北方領土のかかわりです。私が住んでいる富山県と北方領土はむかしから深いかわりがあったことを知って驚きました。現在の黒部市内にある生地の村の人々が北海道へ出稼ぎに行つて昆布漁の手伝いをしていましたそうです。他にも富山県から生活必需品を島に送つたりもしていてお互いに助け合いながら生きていたことがよく分かりました。こういったさまざまな関わりがあったから富山県は、北方領土からの引揚者が、北海道に次いで多い県なのだと思いました。それで私達富山県民は領土問題を他人事のように思つてはいけません。もつと関心を持ってこの問題と向き合っていかなければならないのだと思いました。

二つ目はかつて北方領土に住んでいた人々の生活についてです。体育館で元島民の方々をお招きして出前講座をしました。むかし北方領土で暮らしていた人からお話を聞くことはなかなかできないのでとても勉強になりました。子供達も昆布漁の仕手の手伝いをしていたことや、富山県へ引き揚げる時のことなどを聞きました。島での生活はあまり楽ではなかったそうですが一生懸命に働いていたそうです。そんな大切な郷里をいきなりロシアにうばわれてしまうのはとてもかわいそうですし、島民の人もやるせない気持ちでいっぱいだと思います。私もある日いきなり自分の住んでいる郷里をうばわれてしまうのは嫌です。だから一日でもはやく北方領土が日本の元へ返ってきてむかしのような生活をしてほしいと思います。

三つ目は日本とロシアとの交流についてです。今、領土問題解決に向けて日本はいろいろな取り組みをしていることが調べていて分かりました。領土問題の解決に近づけていくためには、まず日ロ両国民のひとりひとりが、日本固有の領土である北方領土についての正しい理解と認識を深めることが大切ではないかと思いました。また、日本人とロシア人が友好関係を築くことも必要だと思いました。すぐに北方領土を返してもらうことは難しいのでこれからも

外交交渉などを粘り強く継続して行ってほしいです。

日本固有の領土である北方領土を返してもらうために自分ができることをやっていきたいです。

北方領土復帰促進少女北海道派遣団に参加して

入善町立入善西中学校 二年 朴木 傑

僕は北海道派遣団に参加して改めて北方領土問題について考えてみました。

北方領土問題とは、我が国固有の領土である択捉、国後、色丹、歯舞群島からなる四島が、第二次世界大戦の終了直後、ソ連軍に占領され、現在もロシアの不法占拠の下に置かれている状態の事をいいます。実際に四日目に訪れた納沙布岬からは、その北方領土がすぐ目の前に見えました。わずか三・七キロメートルしか離れていない貝殻島と七キロメートル離れた水晶島を実際にこの目で見た時は感動しました。またこの島が私達の先人が苦勞して開拓した北方領土だと思うと胸が熱くなりました。一方、日本の領土であるこの島に自由に行く事ができないという現実がい

らだちも感じました。

では、北方領土問題はそのままでもいいのでしょうか。

今年七月にロシアのメドベージェフ首相が国後島を訪問しました。我が物顔であちこち見て回る様子はこの土地がまるでロシアの領土だと宣言しているように感じました。これではあまりにも一方的です。もっとお互いに歩み寄る事が大切ではないでしょうか。豊富な資源を独り占めするのではなく、許しあえる点を見つつけ合い、平和的に解決し、よりよい関係を築き上げることが大切です。

私達の祖父母が島を追い出されて六十七年もの歳月がたちました。元島民の数が少なくなってきた今日、このままでは、北方領土に住んでいた世代がいなくなり、北方領土に暮らしていた人が生きていく間に島の土を踏めなくなるかもしれません。僕は結団式の際に富山県支部長の吉田さんが言われた事を思い出しました。吉田さんが四十年間返還運動をしているのは、先祖の願いだとわかりました。高齢になっていく元島民の方々の思いを一刻も早く叶えなければならぬと思いました。

北方領土返還について、自分達は大きな事はできません。しかしこの問題を風化させないように友達や周りに広めて行くことは出来ると思います。小さな運動が大きな結

果となるように、全員で北方領土返還活動を続けて行かなければならないと強く感じました。

北方領土問題

富山市立奥田中学校 三年 大野奈々子

北方領土問題は、学校の授業やテレビのニュースで耳にしたことはありませんが真剣に考えたことはなくあまり詳しくは知りませんでした。元々の日本の領土を現在はロシアが支配している、何故？という疑問がまず湧きました。本当に日本の領土だったの？それを解き明かすのに、まずインターネットなどで北方領土の歴史を調べてみました。北方領土のある千島列島や北海道は元来、アイヌ人が住んでいました。江戸時代になり、松前藩がアイヌ人を支配することにより、これらアイヌ人の住んでいた土地は松前藩の管理するところとなります。やがてロシア人が幕末になり日本との貿易を望むようになり一八五五年日露通好条約が締結されました。この時、北方四島（国後島、択捉島、歯舞群島、色丹島）が日本の領土と決まりました。つまり、

この時から北方四島は国際的にも正式に日本の領土となった訳です。更にこの後、明治時代になり、樺太千島交換条約がロシアとの間で結ばれ千島列島全体が日本の領土となりました。私は、いつもテスト勉強のために歴史の教科書を見る程度で目的を持って調べたりしたことがなかったのですが、この二つの条約の内容を見て初めて日本と北方領土の結びつきが分かりました。それでは、どうして現在はロシアの支配するところになっているのでしょうか。一九四五年八月十五日、日本は、太平洋戦争に負け無条件降伏しました。ところが、この時、戦争を止めず、一国だけ軍隊を使って他国への侵略を行っている国がありました。ロシア（ソ連）です。八月二十八日から九月五日までの間に北方領土に軍隊を進め現在まで支配しているのです。背景には、米国や英国との密約があり日本との戦いに参戦する見返りとして北方領土がロシアのものとなったと色々な本やネット情報にかいてありました。しかしながら、千島列島、特に北方四島は日露通好条約、樺太千島交換条約からみてロシアとの正当な外交交渉により得られた領土であることは歴史上明白です。対して現在のロシアによる北方領土支配は日本降伏後の一方的な軍事的行動により得られた結果で、それは戦勝国の当然の権利という態度を取ってい

ます。それ故、私たちの正当な返還要求も認めず、大統領の訪問など実行支配をますます強めています。こういう状況での領土返還交渉はとても困難だと思えますが、現状はロシアによる不法支配が続いている、ということを私たちは、継続的に言い続けていかなければならないと思えました。領土問題を抱えていることは、日本、ロシア両国の発展的関係構築上マイナスです。原則を大事にしつつも現実を見る目を持ち、忍耐強く返還交渉を継続すべきと思っています。

両国のものなのか

射水市立大門中学校 一年 金田 和磨

皆さん、北方領土を知っていますか。択捉島、国後島、色丹島、歯舞群島からなる、北方四島のことです。日本は、ロシアよりも早くこの島々の存在を知り、江戸時代には、この四島を完全に統治し、日本の領土になりました。

しかし、日本がポツダム宣言を受け入れた後、一九四五年八月二十八日から、同年の九月五日までの間にロシアは

条約をやぶり、北方四島を占領しました。日本人は、全島で一万七千人ほどが住んでいましたが、一九四九年に、自国へ編入してから、一九四九年までに、すべての日本人を強制退去させました。それ以降ロシアによる不法占拠が、つづいています。今は、取りもどすために返還運動をしています。

そもそも、なぜ返還運動をしているのかと思ひ調べてみると、四島がソ連軍に不法占拠された直後の一九四五年十二月、当時の安藤石典根室町長が連合軍総司令官に「四島を米軍の占領地域にしてほしい」と陳情したのが始まりとされています。

強制退去した人々の中には、富山に住んでいるが、千四百人いた島民は、約六百人まで減ってしまい、全員が七十歳以上と高齢化が進み、島でのくらしを語り継ぐ人々が少なくなつて、返還運動がしだいに弱まってくることも考えられます。

そしたら、四島は、どこの領土なのか。ほとくの考えとしては、両国のものにしてしまえばいいと思います。その方が一番合理的に思えるし、両国の友好関係がぎずけると思ふからです。南極も、どこの国でもないのです、この方法が一番だと思いました。それでもだめなら、もう四島を両国

とも、島の出入りを禁止し、すべての住民を国へもどし、リセットしてしまえばいいと思います。

返還を求める声は、全国に広がりさまざま活動をしています。政府は二月七日を「北方領土の日」と制定しました。首相や元島民らが出席して北方領土返還要求全国大会などを開いているほかに、キャラバン隊や講演会などを繰り広げています。

署名活動などもさかんです。昨年は、九十五万人以上の署名が集まり、総人数は一九六五年から今年三月で八千三百九十一万人を超えました。署名は毎年、国会に提出されています。

尖閣諸島や竹島をめぐる、領土問題に国民の関心が集まっています。これから、この問題をどう解決していけばいいのか、そしてほくたちにできることは何だろうか。日本の島が不法占拠されていることを許してはいけないと思ひます。

この機会に、より多くの人が返還運動に参加してくれば、大きな力になっていくと思ひました。

北方領土について

氷見市立十三中学校 二年 岡 あゆり

みなさんは「北方領土」という言葉を知っていますか。言葉は知っていてもよく分からないことがたくさんあると思います。どこにあつてどんな問題が起こっているのか知らない人はいると思います。私は、今回北方領土について考えていろんなことを知りました。

「北方領土」とは、北海道の根室半島につらなる歯舞群島、色丹島、国後島、択捉島の四つの島々のことです。面積は五千三十六平方キロメートルで、沖縄県の約二二二倍、富山県の面積の約一二倍の広さです。「北方領土」にはいろんな動物がいてとても自然が豊かな島だと思います。そしてその島に住む人はおもに漁業をいとなんでいました。魚が一番多く取れたからだと思います。

「北方領土」の問題は日本が一日も早く解決しなければならぬ問題だと思います。日本にこんなに近い北方領土が日本の領土でないはずがありません。また歴史的に見ても一九五一年の「サンフランシスコ平和条約」でも択捉島、国後島、色丹島、歯舞群島の四つの島は日本の領土になっ

ています。それなのにロシアは未だに不法占拠を続けています。このため今でも返還運動が続けられています。

この活動は戦後まもなく北海道の根室で始まりました。当時の根室町長は島から追われた人を援護したり、連合国司令官に陳情書を出したりと、懸命に努力を続けました。その結果、今では活動は全国に広がり、日本中の人々が返還を求めています。その証拠に署名した人の数は八千三百万人を超えるまでになりました。今後ますます返還運動をさかんにし、領土返還の後押しをするためには、まず私たち若者が北方領土問題についてしっかり学び、関心をもつことが大切だと思います。

ロシアに対する返還運動と同時に日本とロシアの交流活動も行われています。この交流活動で日本人と北方四島在住ロシア人の間で友好が深まってきています。この活動はお互いに理解し合っていくうえでとても大切な活動です。この活動は問題が解決した後もずっと続けられたいと思います。

私は北方領土について学習し、北方領土という場所がとても身近になったように思います。それと同時に北方領土に関する問題についても深く考えることができました。

今までは北方領土のことはあまり気にかけていませんで

したが、今度の学習で考え方が変わりました。

北方領土の問題は日本という国にとって大変重要な問題の一つです。だからこそ日本の国民が一つになって取り組んでいかねばならない問題だと思います。これから日本は主張すべきことは主張して一日でも早く領土返還を實現できるようにしなければなりません。



